

【るもい農業情報広場】

令和4年10月1日 R4-10月号

QRコードを読み取って
アクセス!!!

今月の技術対策 (畑作編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp



水稲・園芸編も
HPで公開中!

【大豆】

1 収穫

平年より生育が早く進んでいます。刈り遅れがないよう、適期収穫に努めましょう。

- (1) コンバイン収穫の適期は子実水分20%以下、茎水分40%以下となった時期で、地際部の茎の「ぬめり」が無い状態で行います。
- (2) 収穫の際には、刈り高さやコンバインの速度に注意して、刈り取り損失低減や汚粒防止に努めましょう。株が倒伏している場合は、特に注意して作業速度を調整しましょう。

2 収穫残さの処理

収穫後の茎葉等の残さ物は、病害の発生源や害虫の越冬場所となるので、できるだけほ場外に搬出し堆肥化するなど、適正に処理しましょう。

【秋まき小麦】

1 ナタネタビラコへの除草剤散布

ナタネタビラコの発生が多いほ場では、越冬前にすでに発生が見られています。ほ場を確認し、発生が見られる場合にはエコパートフロアブルを散布して下さい。



写真 ナタネタビラコ(9月撮影)

2 雪腐病防除

雪腐病の発生は、欠株や生育不良を引き起こし、収量品質に大きく影響するため、必ず防除を実施しましょう。

(1) 事前対策

融雪水が停滞するようなほ場では褐色雪腐病が発生しやすいため、根雪前に溝切り等を行ない排水対策に努めましょう。

(2) 薬剤散布

雪腐病は根雪直前の防除が効果的ですが、「根雪が早い」「畑が軟弱で根雪直前に防除できない」場合には、残効性の長い薬剤(フロンサイドSC)で早め(10月下旬頃)の防除を実施してください。



写真 停滞水対策(溝切り)

(3) 薬剤散布時の留意点

- ① 散布は天気の良い日中に行い、薬液が乾くようにしましょう。
- ② 早朝など、葉に露が付いている状態での散布は、薬液が十分葉に付着しないので注意しましょう。

～農薬使用時にはラベル等で登録内容を確認願います～

【次年度に向けたほ場管理】

1 緑肥の処理

次年度以降の緑肥の雑草化を防ぐため、必ず結実する前にすき込みます。すき込む際は分解を促進するためにチョッパー等で細断し、10月中旬を目安にすき込みましょう。



写真 結実前にすき込み

2 堆肥の散布

緑肥すき込み時にあわせて、地力維持向上のために堆肥の散布を行いましょう。使用する堆肥は雑草害や病虫害の無いよう、完熟した堆肥を使用します。施用量は、地力維持の場合1 t/10a/年、地力向上の場合3(連用)～5(単年)t/10a/年を上限に施用しましょう。

3 透排水性の改善

- (1) 作業機の移動が多いほ場の出入り口等を中心に、心土破碎など排水対策を行いましょう。
- (2) 心土破碎は切り溝とその周囲に細かい亀裂がしっかり形成されるように、土壤がある程度乾いた条件時にできるだけゆっくりとしたスピードで実施しましょう。また、滞水防止のため切り溝は必ず明渠や暗渠につなげましょう。
- (3) 過湿状態でのプラウ耕は、土を練り返し、翌春の碎土性の悪化につながります。無理な施工は避け、翌春、早々に施工できるように、溝切りによる排水促進や融雪剤散布などほ場の早期乾燥に向けた対策を万全に行いましょう。

4 土壌診断の実施

土壌診断の結果から養分の過不足を知り、次年度の施肥設計に活かしましょう。

～日没が早まっています。農作業事故に注意しましょう！～